

【果樹】の【積雪】対策について

<12月～2月>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【果樹全般】

(1) 予想される被害状況

積雪に伴う枝の折損や棚の倒壊。
積雪に伴う低温被害による枝枯れ。

(2) 事前対策

- ① 枝の分岐点が裂けるおそれのある幼木や高接ぎ樹では、枝葉をまとめて結束したり、分岐部を縄で8の字型に縛っておく。
- ② 棚栽培の果樹においては、枝の棚への固定を確認するとともに、棚の補強を行う。

(3) 事後対策

- ① 結束した枝は、雪が溶けたあと結束部を解いて蒸れを防ぐ。
- ② 枝折れ、枝裂けしたところは切り取り、大きな傷口には塗布剤を塗る。
- ③ 枝が裂けたものは、軽傷であれば縄などでしっかり絞って固定し、回復を図るが、激しい場合は切り取って切り口に塗布剤を塗る。
- ④ 積雪数日後から枝枯れが見られ始め、2週間程度すると症状が固定するが、低温期の枯れ枝の除去は、枯れ込みが進行することがあるので、春に新梢が伸びて緑化が終わったあとに除去する。

【露地かんきつ類】

(1) 予想される被害状況

果実上の積雪による凍結に伴うす上がりやヤケ。

(2) 事後対策

果皮のヤケ、す上がりなどの発生した果実が出荷物に混入しないように細心の注意を払う。

【施設果樹】

(1) 予想される被害状況

積雪による施設等の破損、これに伴う施設内作物の物理的被害、低温障害。
停電による暖房機の停止に伴う低温障害等、2次的な災害についても注意が必要。

(2) 事前対策

- ① 融雪や雪の滑り落ちを妨げないため、外張りビニルの上にネット等を設置している場合には事前に撤去する。
- ② 暖房施設がある場合は、暖房機の温度設定を高めに設定し、内張りビニルは解放して融雪を図り、積雪による破損や倒壊を防ぐ。
- ③ 暖房機の温度設定や内張りビニルの解放度合いは、積雪の程度を確認しながら調整する。

- ④ 積雪が多く予想される場合には、自動開閉装置の破損を防ぐため手動に切り替え、換気はサイドビニルの巻き上げ等に対応する。
- ⑤ 暖房設備の無い雨よけハウスは、積雪によりパイプの破損などの被害が予想されるので、積雪前に被覆資材を除去する。

(3) 事後対策

低温や日照不足で草勢が低下した場合は、葉面散布を行う。

【果樹】の【低温】対策について

<2月>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【果樹全般】

(1) 予想される被害状況

低温に伴う枝枯れ。

(2) 事前対策

- ① 冷気が低滞するのを防ぐため、防風林の枝すかしを行い、すそ枝は地上1mくらいまで剪除する。密閉した防風林では、防風樹の間伐を考える。
- ② 土壌乾燥が激しい場合は寒害を受けやすくなるので、日中の温度が高い時間帯に十分な量のかん水を行う。
- ③ 燃焼で寒害防止を行う場合は、火災防止の観点から周辺環境に十分配慮するとともに固形燃料や灯油などばい煙発生が少ない燃料を使用する。

(3) 事後対策

- ① 低温遭遇数日後から枝枯れが見られ始め、2週間程度すると症状が固定するが、低温期の枯れ枝の除去は、枯れ込みが進行することがあるので、春に新梢が伸びて緑化が終わったあとに除去する。
- ② 新梢発生後は葉面散布を実施し、樹勢の回復に努める。

【かんきつ類】

(1) 予想される被害状況

果実のす上がりややけ。

(2) 事前対策

低温によるす上がりの発生しやすい園地ではアルミ蒸着フィルムの袋をかける。

(3) 事後対策

果皮のやけ、す上がりなどの発生した果実が出荷物に混入しないように細心の注意を払う。